

# 白峰村南部地域の居住分布—特に出作りについて

岩田 憲二 石川県白山自然保護センター

## THE DISTRIBUTION OF DEZUKURI IN THE SOUTHERN PART OF SHIRAMINE-MURA

Kenji IWATA, *Hakusan Nature Conservation Center, Ishikawa*

### はじめに

これまで筆者は、白峰村大道谷地区（岩田，1987）・同桑島地区（岩田，1988）の出作りの分布について報告した。その中で、これらの地区では永住出作り・季節出作りといった居住形態が明確に分かれていて、大道谷地区は永住出作り中心、桑島地区は季節出作り中心であることを指摘した。その原因として、両地区の出作り一戸当りの経営面積の差異の他に、大道谷が属する字白峰と字桑島の居住文化・生活文化の相違を挙げた。そして、永住出作りの居住形態は字白峰に根づいていたものであり、出作りが字桑島に伝播した際に同所では季節出作りとして定着したと推論した。これからいうと、今回取り上げる白峰村南部地域は字白峰に含まれるので、永住出作りが大多数を占めるものと予想される。調査の対象となる白峰村南部地域とは、大杉谷周辺地域と河内谷（赤谷・三ツ谷・市之瀬）である（図1）。他に風嵐・明谷地区があるが、今回の調査では割愛した。

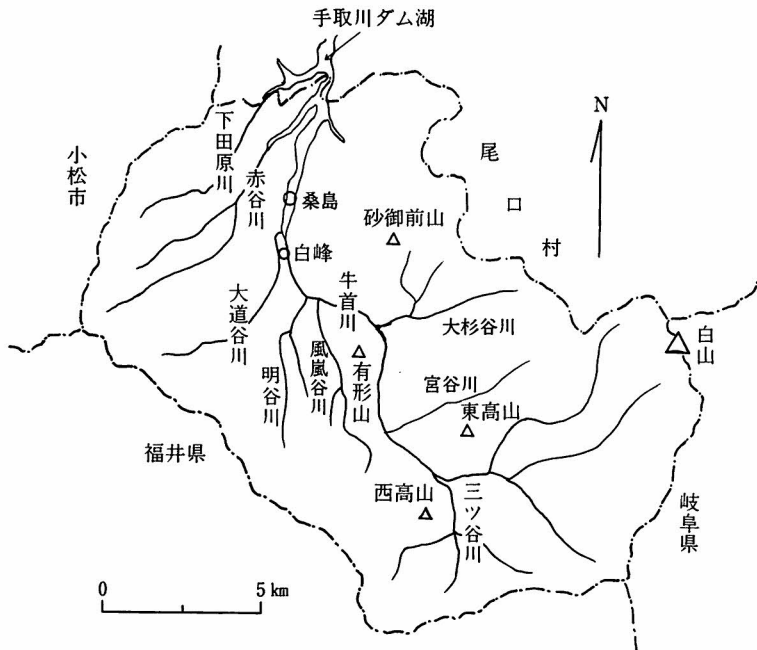


図1 白峰村周辺図

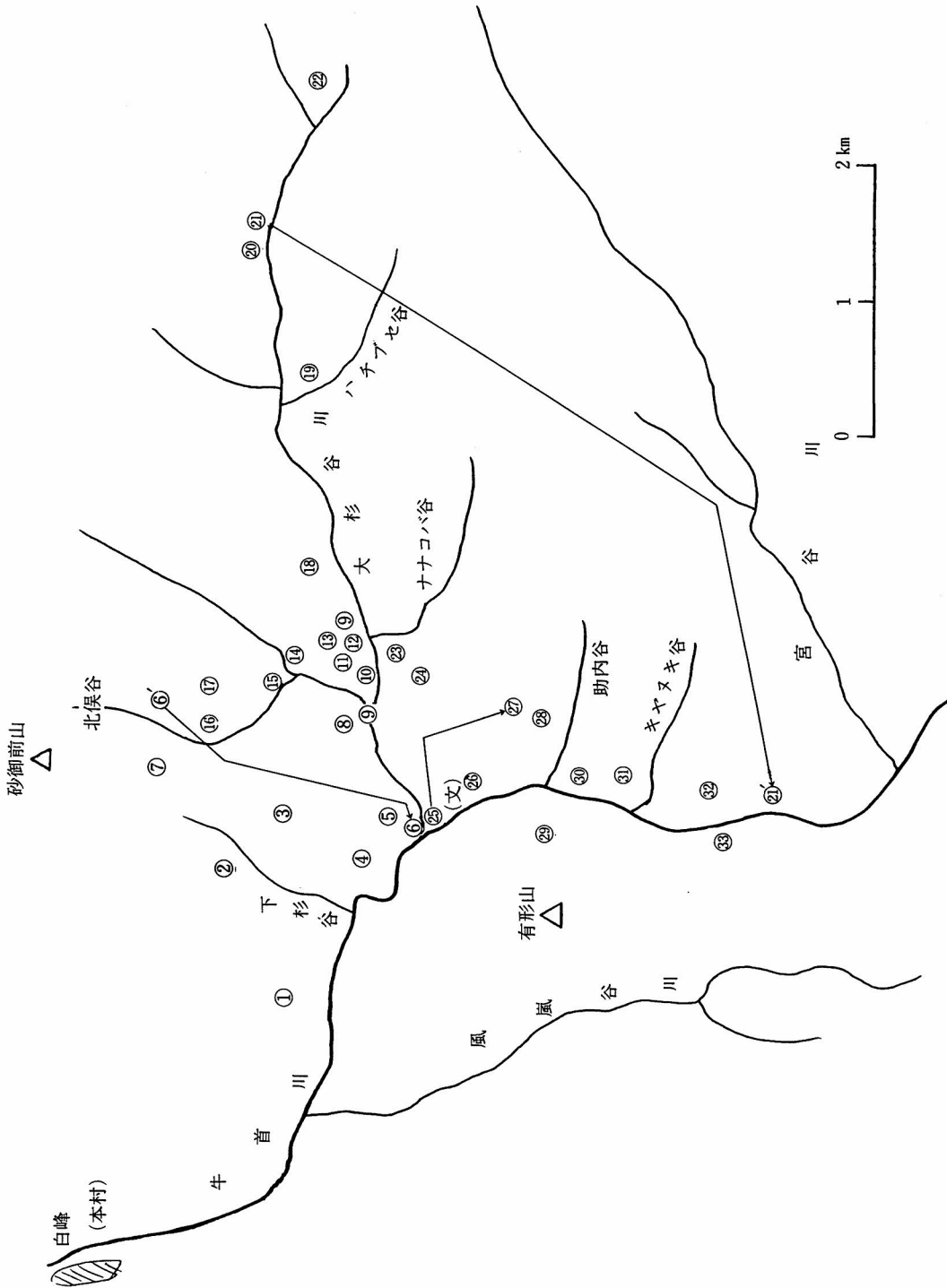
表1 大杉谷周辺地域の居住者

大杉谷周辺地域

(×:家が絶えた)

(○:居住した)

	屋号	居住形態	土地所有	転出先	標高	昭和30年	備考
1	イッショモハチ	季節出作	自作	村	650	○	昭和63年まで出作り。
2	コサ	永住	請作	村		○	
3	ヨキチ	季節出作	請作	金沢			
4	シチベエ	季節出作	請作	金沢	655	○	
5	サブロベ	季節出作					昭和初期までいた。あと、シチザエモンが入った。
6	ヨハチロウ	永住	自作	?			大正頃まで6にいて、その後6'に移った。
7	コンシニヨモ	永住	請作	市ノ瀬→勝山			
8	キンシロウ	季節出作	請作	勝山		○	母村は風嵐。
9	キイチ	永住		×			水害まで9にいて、その後終戦直後まで9'にいた
10	ヨジ	季節出作	自作	村	725	○	昭和59年まで出作り。
11	カクジロウ	永住		勝山			昭和9年水害までいた。
12	ヘイチ(荷原)	永住	請作	勝山	725	○	19を出て分家となる。昭和35年頃までいた。
13	セイショウ	永住	請作	村		○	ジュウタ(34)のあとに入った。昭和45年頃まで。
14	ムツバ	永住	自作	村		○	昭和40年頃までいた。
15	タケノ	季節出作	自作	村		○	母村は風嵐。
16	オリマツ	永住	請作	鶴来		○	
17	セイハチ	永住	自作	勝山		○	
18	マゴサブロウ	永住	自作	村→勝山	835	○	昭和40年頃までいた。その後、村から勝山へ。
19	ヘイチ(荷原)	永住	請作	9→勝山			大正の頃居住した。12の自家。
20	シチザエモン	季節出作	請作	村		○	昭和7年頃、サブロベイ(5)の跡に移った。
21	イシキチ	季節出作	請作	村		○	昭和初期までいた。その後21'(ヨシマツの跡)へ。
22	マツザエモン	季節出作					昭和初期まで生きていた。
23	イッショモイシ	永→季節	請作	村		○	母村は風嵐。
24	チョウキチ	永住	請作	×			水害の少し後までいた。
25	ジnkロイシマツ	永住	請作	勝山		○	水害後、キンニヨモン(27)へ移った。
26	マンゾウ	永住	自作	金沢	655	○	
27	キンニヨモ	永住	請作	勝山	790		大正期に出た後、一時空家。水害後、25が入った
28	チュウザプロ	永→季節	請作	大阪		○	
29	ニサ	永住	請作	村	745	○	昭和40年代中頃迄居住した。
30	トウスケ	永住	請作	勝山			
31	マツジロ	季節出作	請作	金沢		○	昭和30年代中頃迄居住した。
32	ヘイチ(河内谷)	季節出作	請作	村	650	○	
33	コマ	永住	請作	大阪方面		○	郵便配達を請負う。
34	ジュウタ			福井県			昭和5年頃までいた。あとにセイショウが入った。



(文)：河内谷分校

図2 大杉谷周辺地域居住分布図

石川県白山自然保護センター研究報告 第16集 (1989)

表2 河内地域の居住者

河内地域(1~24:赤岩, 25~35:市ノ瀬・白山温泉, 36~45:三ツ谷) (×:家が絶えた) (○:居住した) (※)昭和9年水害直後の高台基況

屋号	居住形態	土地所有	転出先	標高	水害後	S30年頃	備考	
1	スエマツ	永住	自作	村				
2	サブロ	永住	自作	村				
3	カミタニ	永住	自作	大阪				
4	トミヨモ	永住	自作	勝山(平泉寺)				
5	シロヨモ	永住	自作	36→鶴来	焼野焼居	○	昭和9年の水害後、三ツ谷(36)に移った。	
6	ソウザエモ	永住	請作	勝山				
7	アラヤ	永住	請作	福井				
8	コシロ	永住	請作	村				
9	フクマツ	季節出作	請作	金沢	825	○	水害時にはいなかった。その後、移ってきた。	
10	ヤマロク	永住	自作	勝山		残留	高台のため家は無事であった。	
11	トメノオジ	永住	自作	市ノ瀬→平泉寺		焼野焼居	○	水害後は市ノ瀬に移った。
12	トメ	永住	自作	鶴来		残留	○	高台のため家は無事であった。
13	チョウヨモ	永住	自作	×		残留		高台のため家は無事であった。
14	ニキチ	永住	自作	金沢	840	残留	○	高台のため家は無事であった。
15	コザイモ	永住	自作	鶴来	830	残留	○	家を再建して赤岩に残留した。
16	センマ	永住	自作	勝山(平泉寺)				
17	シロシチ	永住	自作	勝山				
18	シャムクロニキチ	永住	自作	勝山(平泉寺)				
19	ニタ	永住	自作	金沢				
20	イチチョモ	永住	自作	吉野谷村	745	残留	○	家を再建して赤岩に残留した。
21	カメ	永住	自作	勝山(平泉寺)				
22	モトヨモ	永住	自作	勝山				
23	ユウキョウヨシナカ	永住	自作	村→×				
24	ユウキョウ	永住	自作	野々市		残留	○	家を再建して赤岩に残留した。
25	トウゾ	永住	自作	金沢		残留	○	家を再建して市ノ瀬に残留した。(25')に出作り。
26	トギヨモ	永住		現住		残留	○	家を再建して市ノ瀬に残留した。夏期のみ居住。
27	ヘイザイモ	永住		勝山				
28	タカノストメ	永住		×				昭和9年の水害で家系が絶えた。
29	シチロモ	永住		×				昭和9年の水害で家系が絶えた。
30	コサ	永住		村				
31	ゲンゴロ	永住		×				昭和9年の水害で家系が絶えた。
32	ヨソ	永住		×				昭和9年の水害で家系が絶えた。
33	コウシタ	?		小松				
34	ココモ	永住		村				
35	ヤマダ	永住		?		残留		家を再建して市ノ瀬に残留した。
36	タッチョモ	永住		金沢	770			水害後に転出。跡地にシロヨモ(5)が入った。
37	キザイモ	永住		勝山				水害後に転出。
38	シチゾ	永住		金沢	785	残留	○	
39	リノキチ	永住		大阪	780	残留	○	(39')に夏期出作り。
40	キタロ	永住		鶴来		残留		水害後に転出。
41	シンスケ	永住		金沢	795	残留	○	(41')に夏期出作り。
42	オトイチ	永住		金沢	780	残留	○	
43	ニキチ	永住		鶴来		残留	○	
44	キシロ	永住		鶴来		残留	○	
45	イチザエモ	永住		勝山		残留	○	

(編, 1988) も一部参考にした。



調査に際しては、この地域のかつての出作りに関する基礎資料を杉田敏男氏（白峰村）から、郵便家屋配置図を小倉 学氏（金沢市）から、それぞれ提供していただいた。また、林 七蔵氏（金沢市）・加藤政治氏（野々市町）・長坂吉之助氏（白峰村）・永井竹男氏（白峰村）には、聞き取り調査の際に貴重な情報を提供していただいた。石川県立歴史博物館の橘 礼吉氏には調査をまとめる際に有益な助言と資料をいただいた。この場をかりて厚く御礼申し上げます。

### 調査の方法

今回の出作りの分布調査は、聞き取りと空中写真判読の両方を併用した。聞き取りは調査地域に居住体験のある人達を対象とし、1/5,000森林基本図を見ながら出作りの位置を確認した。空中写真は、石川県作成の1/10,000の写真（1955年撮影）を使用し、実体鏡を使って家屋を読み取った。この他に1953年に郵政省により作成された白峰村郵便家屋配置図も参考にした。

### 大杉谷周辺地域

今回の調査でとりあげた大杉谷周辺地域とは、具体的にいうと旧河内谷分教場校下地区である（図2）。つまり、河内谷分教場の通学範囲に居住した住民が調査の対象となった。大杉谷周辺では、白峰及び風嵐を母村とする季節出作りと、夏冬通してその地に居住する永住出作りの両方分布している。当地域で確認できた出作りは全部で34戸あり、その内20戸が永住出作り、11戸が季節出作り、3戸が最初永住で後に季節出作りになった。季節出作り11戸の内、白峰本村を母村とするものが7戸、風嵐を母村とするものが3戸あった（1戸は不明）。当地域は後述の河内谷（赤谷・三ツ谷・市ノ瀬）よりも比較的遅くまで居住者が残りイッシュモハチ(1)は昭和63年まで、ヨジ(10)は昭和59年までいた。また、昭和30年代でも割合多くの居住者がいた。旧居住者の転出先については、白峰村の他の地域と同じく、福井県勝山へ移った例が見られた（表1）。

### 河内（赤岩・三ツ谷・市ノ瀬）

河内とは、白峰村最奥部の市ノ瀬・赤岩・三ツ谷のことをいい、宮谷より奥の地域をさす。現在では、市ノ瀬に夏期のみ居住者（旅館や公的出先機関など）がいるにすぎないが、かつて明治20年代には三集落合計で72戸の住民がいた。しかし、明治20年代後半の相次ぐ水害や日清戦争の勃発などにより、同30年代には河内から合計36戸が北海道へ集団移住し、その後白峰村他地域からの逆移住が10戸あったものの、昭和9年手取川大水害直前には44戸に減少していた（加藤，1986）。そして、大水害直後には19戸に激減し、昭和30年頃には22戸いたものの同30年代末には殆ど廃村に近い状態になり、現在では夏期居住者のみである（表3）。このように、河内の居住者数はかなり激しく変遷したので、居住分布をいつの時点で作成するかが問題になってくる。ここでは古老の記憶にまだまだ生々しく残っている昭和9年大水害の直前の分布状況を一応の目安にする（図3）。

今回の調査で確認できた居住者は全部で45戸あり、そのほとんど全てが永住者であった。河内地区は、明治時代に旧牛首村・風嵐村と合併する前は白山権現領として越前平泉寺の配下にあり、一応の独立した地域となっていた。この点が、白峰本村・風嵐からの季節出作りが散見された大杉周辺地域と異なるのであり、河内が永住者のみの地域となる理由であろう。なお転出先としては、これまで調査した他地域と同じく福井県勝山市が多かった。その中でも平泉寺へ転出した例がいくつか見られる

のは、両地域の歴史的なつながりを示す一端といえる（表2）。

表3 河内谷居住者数の変遷

年 代	明治初期	明治30年代		昭和9年水害時			昭和30年頃	現在
		(集団移住)*		水害直前	水害直後**			
赤 岩	30	(-14, +5)	21	20	(-12, -2)	6	6	0
市ノ瀬	22	(-16, +3)	9	11	(-8, +1)	4	6	2
三ツ谷	20	(-6, +2)	16	13	(-5, +1)	9	9	0
合 計	72	46		44	19		21	2

\*北海道への集団移住、\*\*河内谷内部での移動が2戸（赤岩→市ノ瀬・三ツ谷）があった。

### ま と め

今回の調査では、白峰村南部の大杉周辺地域と河内地方の居住分布を簡単に報告したにとどまった。これまでの居住分調査と比較すると、河内地区の永住者の多さは大道谷地区と全く同じ傾向であり、また両者とも越前（福井県）との結びつきは大変強い。いずれにせよ、桑島・下田原地区が殆ど季節出作りであったのにたいし、大杉谷・河内が共に永住主体の居住傾向を見せたのは予想どおりといえる。

### 文 献

- 岩田憲二(1987)白峰村大道谷地区における出作りの分布の変遷について、石川県白山自然保護センター研究報告、第14集、p.107-117.
- 岩田憲二(1988)白峰村における出作り分布の変遷について－桑島地区を例として、石川県白山自然保護センター研究報告、第15集、p.107-116.
- 加藤政則(1986)白山の埋み火、川上御前社跡保存会.
- 橘 礼吉(1988)ムツシの生態的環境条件－白山麓の焼畑用地の民俗的考察その2－、石川県白山自然保護センター研究報告、第15集、p.87-105.